

生き生きと働き、誇れる町の今を大切に伝える

VOL.12
フォーカス
Focus
Focus on hot human.

遊び心を形に、 命を吹き込む——

椎葉 茂さん(田上)



会話をしながらも数分で葉っぱをバツタに仕上げる椎葉さん

竹 細工や葉細工なども手がける、和楽路の会の椎葉茂さん(74 田上)。今から約30年前、雑誌に載っていた竹細工が目に入り、自分で真似して作ってみることが始まり。思っていた以上に作品がよくできたことで、どんどん工作にはまっていた。

「家にあるものでできることが竹細工の良いところ。買うのは接着剤ぐらい」と使うのは家にある竹と竹ぼうきの先端の小さな枝。ナイフと小さな錐を使って材料を加工する。竹は割れやすく、完成間際で割れてしまうこともある。作業には細心の注意を払っている。仕上げた細かいパーツをつなぎ合わせて作品を作り上げる。竹はいろんな生き物に大変身。人や、カニ、カブトムシ、クワガタ、テントウムシ。どれも今にも動き出しそうなほど生き生きとしている。シュロやカヤの葉はバツタに。ストローはエビやムカデに。椎葉さんの手によって、身近な物に命が吹き込まれる。「こうしたらおもしろいんじゃないか」という遊び心を形にすることが椎葉さんのこだわり。作品を本物に近づけるため、曲がった枝などいろんな形の材料を組み合わせて、横やナナメの動きも表現するように工夫している。「人に喜んでもらえることがうれしい」と作った作品は他人に譲る。メロンやパプリカなどの農作業が忙しかったため、今は竹細工よりもわらじ作りを優先している。「たくさんの人にわらじの会に入ってほしい。長く続けると上達する。作る楽しみを感じてほしい」。椎葉さんはだれよりも、ものづくりの感動を分かち合う楽しさを知っている——。

お腹の編み込みまで
こだわり、本物そっくりなバツタ

1バツタは畑に生えているシュロの葉。材料は自宅にあるものでまかなう 2ストローに命を吹き込みエビが誕生 3弓矢で猪の的を射るユニークな作品が椎葉さんのお気に入り

